

令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会
第2回 緑の維持管理のあり方検討部会 会議摘録

1. 開催日時

令和8年3月26日（木）13時30分～15時00分

2. 開催場所

川崎市役所本庁舎17階建設緑政局会議室（オンライン併用）

3. 出席委員

佐藤 慶一 委員、橘 貴子 委員、前田 成東 委員（計3名）

4. 会議の公開・非公開の別

公開

5. 傍聴者

0名

6. 次第

- 1 議題（1）緑の維持管理のあり方について
- 2 その他

7. 議事摘録

【開会】

事務局	（開会挨拶） （傍聴者確認）
-----	-------------------

【次第1 議題】

佐藤部会長	ではこれより審議に入る。なお、審議の中で発言を求める場合には、許可を得てから発言いただくようお願いする。 それでは、議題「緑の維持管理のあり方」について、事務局から説明をお願いする。
事務局	（資料1 緑の維持管理のあり方（案）に基づいて説明）
佐藤部会長	では、委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたい。
橘委員	資料1は内容も非常まとまっており、読みやすい資料であった。 特に（P.23）の小さな単位で関わってもらうことも意識した内容になっていて、実現できるとよいと感じた。
佐藤部会長	文言などで気になる箇所や加えておくとよいことはあるか。
橘委員	事務局から口頭で説明はあったが、文章にはできていない部分を上手く加えられるとよい。計画書全体として、今回のように説明を入れなくても誰が見ても同じ意味が伝わる計画書にできればしてほしい。 例えば先ほど、「（この部分は）若い方はご高齢の方と比べて協働や参画の仕方が少し異なることを反映している」と説明があったが、この説明が無くても計画書の文章だけで伝わるようにできれば、近い未来の事業担当者が読み解きやすい。計画書

	として載せる内容は適切な量があると思うが、説明いただいた内容が今後も事業を担当する皆さんに正確に伝わり実現できる計画書になることを期待する。
佐藤部会長	スポット的な参加の仕方といったあたりの内容か。
橘委員	はい。その点が重要だと考える。現在、緑のボランティアなどスポット的にかかわる活動が見えにくい状況となっている。例えば、分かりやすいものだとゴミ拾いや清掃は見えやすく、緑の活動はそれと比べると分かりやすさ、イメージしやすさにおいて、まだ追いついていないように感じている。緑を好きな方はたくさんいて、少しなら関わりたい人もたくさんいるはずなので、計画書では緑のスポット的な活動について、上手く表現してほしい。
事務局	資料に多少なりとも取り組みの例示を載せ、文言の修正を図っていきたい。
前田委員	(資料1 P.5) 特に生物多様性の保全や気候変動の緩和・適応に関しては、川崎市だけでは解決できない問題であると認識している。計画を立てる段階で、他市との連携や調整は行っているのか。 また、隣接自治体との連携について資料に記述が必要ではないか。
事務局	ご指摘の通り、生物多様性や気候変動に関しては、本市だけで対応できることではないと認識している。資料P.5では緑の持つ機能として挙げており、また国が示している指針においては緑の機能をさらに拡大していくことを前提としているため、他市でも同様の取り組みが進められていると認識している。 他市との連携については、他の大都市などとの会議があり、その中で方向性や共通認識の調整ができるのではと考えている。
事務局	機能と役割で挙げる7つの視点は上位計画である改定中の緑の基本計画との整合を図っており、大前提として管理をする緑の役割を再認識するために記載をしている。緑の基本計画の検討段階において、生物多様性や気候変動など地域を超えた広域な取り組みは欠かせないものとし、議論を進めていく。
前田委員	(資料1 P.8) 添付写真の下、愛護会活動の写真は何を示したいのか読み取れない。
事務局	愛護活動の写真としては適切ではなかった。差し替えをする。
前田委員	差し替えやキャプションを工夫するなど対応してみてほしい。
事務局	愛護活動の高齢化について説明したいため、それが分かる写真に差し替えたい。

前田委員	(資料1 P.10) アンケート調査の結果が簡潔に示されているが、いつどのような方を対象にしたのか、回収率などはどうだったのか。
事務局	概要は資料右下に記載しているが、より詳細な日時や人数などについては記載が漏れていた。できる範囲内で追記したい。
前田委員	(資料1 P.13) 取り組みの方向性⑩「協働活動を促進するための管理」、が分かりにくい。
事務局	P.23□10のタイトル、「多様な協働の手法による管理」がP.13⑩に該当する適当な文言である。修正ができていなかったため、読み替えていただきたい。
前田委員	そのほうが非常に分かりやすい。
佐藤部会長	取り組みについての管理方法「10 多様な協働の手法による管理」には、市民活動の利活用、公民連携、新たな担い手の確保などが含まれるであろう。小学生から大学生までの学生に、学習の一環として地域の緑の維持管理活動に参加してもらうようなことは、新たな担い手の確保という点において有効と考える。P.23 左下写真には子どもが参加している様子が見て取れるが、子どもや若い人目線の文言が資料にあるとよいのではないか。
事務局	新しい担い手の確保の説明として大事な内容である。学生の緑の取り組みとしては、学校の授業の一環で緑地の植栽管理に関わってもらうことや、公園緑地協会が主で行っている高校生に部活動で緑道の管理をしてもらうなど、少しずつ取り組みをしているが、積極的に進めることができていない。具体的に例を挙げるなどして工夫したい。
佐藤部会長	まだ周知されていない活動も多々あるであろう。学生たちの力を上手く使えるとよい。
佐藤部会長	(資料1 P.18) 公園については維持管理の取り組みは重要となると思うが、公園のゾーニング区分や管理水準はどのように設定しているのか。現段階で準備しているものはあるか。
事務局	多様な特性の公園緑地がある中で、例えば民家に接している植栽は高い頻度で剪定をしないと越境や日当たり不良などの課題が発生してしまうため、重点的に剪定にあたるのが重要だと考えている。逆に、広い公園のシンボルツリーのような樹木は緑陰確保のため枝葉を伸ばすことが必要になることから、剪定頻度は高くせずとも維持管理ができるのではないかと考える。こういった公園ごとの立地条件や樹木・植栽の配置などを踏まえて、管理水準や剪定頻度などをある程度統一的にし、計画的に行えるように分類をしていきたい。
事務局	これまでは、どちらかと言えば地域住民の方からの要望や意見をいただいて管理をしていたことが多かったが、現在は少しずつ計画的に維持管理を進めていくこと検

	<p>討をしている。公園ごとに計画的に頻度を決めたとしても全てを実施する必要がないこともあるため、重要な箇所は頻度を高めるなど、ゾーニングの設定を行って計画的な管理をしていこうという考えである。</p>
佐藤部会長	<p>その計画があり、P.24 「5-1 情報発信」に繋がるということだと理解した。</p>
橘委員	<p>今後、緑の維持管理のあり方はどのように市民の方へ発信、共有されるのか。特に参画の仕方については、ターゲットである市民へのアプローチをどのようにするかなど検討していく想定か。</p>
事務局	<p>今回の部会でのご意見などを踏まえて修正をした上で、庁内で最終的な調整を行い、川崎市議会に報告をして公表となる予定である。</p> <p>市民協働の取り組みについては別途、緑の維持管理のあり方を踏まえ手法の検討などを進めていく予定である。そのため、緑の維持管理のあり方は公表までとしている。</p>
橘委員	<p>他の緑の計画と比較すると、川崎市の計画は緑を管理することだけでなく、参画を意識した管理の考え方自体を改めようとしていることが本計画の重要な点の一つであると感じている。今後、管理業者など発注先が決まった後に改めて本計画を意識できる庁内からの仕掛けがあるとより良い方向に繋がるだろう。計画を策定してからは時間が経つにつれて職員や関係者の意識の薄れも起こりうるため、本計画が持続的で長期的に遂行されることが重要である。それにより、市民の方が緑の機能と価値を理解し、いわゆる苦情ではなくプラスの捉え方に移っていくのではないか。</p> <p>今回のあり方の策定については公表までとなるが、この計画がどこに浸透すれば川崎市の目指す姿を実現できるのか意識して進めてほしい。</p>
事務局	<p>まさにその点が重要だと実感している。本市では、昨年度、一昨年度と緑化フェアを通じて、まちの緑とその重要性について、行政だけでなく市民の方や企業の支えがあり今に至ることを強く位置づけている。</p> <p>「川崎市総合計画」のすぐ下に置かれる「みどりの将来像（令和7年度策定）」は全ての分野別計画の上位計画にあたり、「緑の維持管理のあり方」もこれに即すこととなる。「みどりの将来像」では、市民協働について記述しており、この計画により昨年度に市民協働や企業協働を進めるためのグリーンコミュニティ推進室を発足した。特に公園緑地に関わる部門では、既存の愛護会や管理運営委員会などのボランティア組織だけでなく、新たな担い手や組織を探しているところである。</p> <p>今回、「緑の維持管理のあり方」を整理する際にもグリーンコミュニティ推進室と連携を図り、どうしたら計画を浸透することができるのか、新たな担い手と連携ができるのかなど、根本的な考え方を落としこんでいることを、資料として伝えられる内容にしていきたいと考えている。</p>
橘委員	<p>行政、市民、管理業者の方など、多くの方が「川崎の緑は良い」と言い合えることを期待している。</p>

前田委員	今の時代、公的な事柄は行政だけで解決できるものではなく、様々な主体の関わりがあって目的が達成される。これを前提に置くと、緑の維持管理に関わる様々な主体が分かる説明があってもよいのではないか。市民、自治会、町内会、企業、NPO 団体など様々な方々の協働連携により本計画が推進されて緑が豊かになっている。それぞれが主体であることの認識にも繋がるだろう。
事務局	緑の維持管理に関わる主体の模式図などは、資料に加えられるよう努めたい。
佐藤部会長	要素としては既に入っていたが、見えにくくなっていた。この資料を見る人が、自身が緑の維持管理に関与していることが実感できるとよい。
事務局	昨年、川崎市 101 周年のポスターでは絵の中にいる誰かを見て「私もこの中にいるかもしれない」と思えるように作成していた。まさに本計画も、行政計画ではあるが各個人が自分にも関わっていることだと実感できる絵などがあると、分かりやすく理解も得られやすいであろうため検討していきたい。
佐藤部会長	(資料1 P.24) 5-3 分野別計画の策定について、今後は公園、街路樹、保全緑地とそれぞれ具体的な計画の策定に向けて評価手法の検討などを進めていこうが、本計画の進行と絡むとなると適切な動き出しが重要となる。どのように予定しているか。
事務局	それぞれ分野別計画の中で、必要な評価項目を抽出してどのような評価効果が期待できるかを検討する予定である。
事務局	例で挙げているいくつかは、緑の基本計画（令和9年度改定予定）と並行して検討しているため、整合を図っていく必要がある。その中で、既に指標を定め始めているものもいくつかあり、特に緑量や Well-being、生物多様性などについては世界の潮流として指標が多々出ている中で、川崎市として何を取り組むべきかを見定め、位置づけをしようとしている。維持管理に関する分野別計画では、緑の基本計画を踏まえた上で、適切な評価などを設定していきたい。
佐藤部会長	本計画の中にも、指針となりそうな「新たな担い手」や「イベント」などの項目が多々あるだろう。指針を組み立てる際には、目標から実際にどの程度進んでいるか確認していけると望ましい。

佐藤部会長	<p>本日は、非常に建設的な議論をいただきありがとうございました。特に、「ボランティア」、「市民」、「新たな担い手」など人に関して多くの議論となりました。市民の誰もが緑の恩恵を実感して自身も関わりたくなるような「緑の維持管理のあり方」を目指していただきたい。また、本計画の文言を見ると、適切な管理水準や ICT 等の活用による効率化など、避けては通れない事項についてもより適切な維持管理がなされていくことを期待している。</p> <p>今後の最終的な取りまとめについては、私（佐藤部会長）と事務局の間で協議を行い、責任をもって報告できる形に整えていきたい。</p>
-------	--

【次第2 その他】

佐藤部会長	その他として事務局から報告事項あればお願いします。
事務局	<p>今回いただいたご意見を踏まえ、「緑の維持管理のあり方」を今後取りまとめていく。取りまとめた後に皆さまへご報告する予定であり、部会長と協議を行い決定してまいります。</p>
佐藤部会長	<p>委員の方から、全体通して追加の質問等はあるか。 （委員より特になし）</p> <p>本日の議題は以上とし、事務局に進行をお返りする。</p>
事務局	<p>佐藤部会長、議事進行ありがとうございました。また皆様、本日は長時間にわたりご審議いただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>本日いただいたご意見を踏まえ、緑の維持管理のあり方の策定に向けて、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和7年度川崎市公園緑地等整備計画推進委員会、第2回緑の維持管理のあり方検討部会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>